

地域のための景観マネジメント研究 WS 第1回勉強会：2008.9.24(土木学会)
討議内容の記録

講演タイトル：モデルとデザイン	
講演者：羽藤 英二（東京大学）	
日付： 9月 24日（水）曜日，セッション時間： 10:10 ～ 11:00	
オーガナイザー・司会者名(所属)：田中 尚人（熊本大学）	
討議内容	<p>■モデルとデザイン</p> <p>星野先生（熊大）が、「デザインとモデルは、いかにシンプルに表現するか、またどちらも嘘をつくという点で似ている」と言っていた。両者はどういうところで共有できるところがあるか（田中）</p> <p>→デザインとモデルが似ているという指摘は正しい</p> <p>ある構造物が美しいとき、それはある個人が一貫性・原則をもってつくったからである。</p> <p>デザインもモデルも、不要なものはどんどん削っていくが、エッセンスが抜け落ちてはいけないという点で、共感できるところがあると思う。</p> <p>→モデルとデザインはお互いの持っている技術の理解が必要ではないか。</p> <p>道後の駅前の再生のプロジェクトから、お互いに想定範囲が狭く、絡むことができることを見落としていると感じている。</p>
	<p>■生業が失われた風景の再生について</p> <p>「既に生業として壊れている風景を再生させることの意味をもう一度良く考えるべきだ。」ということ、風景を再生すること自体意味がない？それとも、必要だが意味を考えるべき？（佐々木）</p> <p>→後者である。風景の中で生きていく生業を読み解き、風景と生活がどう関係していくのかを考える必要がある。ただ再生することには反対。やるならば、やり方の工夫が必要である。</p>